三重県農業信用基金協会

1 三重県の紹介

紀伊半島の東側に位置する三重県は、気候にも恵まれ、多様な自然と豊かな文化を合わせ持つ魅力的な地域です。

自然は、伊勢湾から熊野灘につながる海岸線、紀伊山地や鈴鹿山脈などの山々をはじめ、伊勢平野や伊賀盆地に広がる田園地帯など多様な彩りを醸し出しています。

文化の中心である伊勢神宮は、天照大御神や豊受大御神が祀られる日本を代表する神社であり、江戸時代より“おかげ参り”として親しまれてきました。現在でも参道にあるおはらい町には数多くの店舗が立ち並び、1年を通して多くの参拝者で賑わいを見せています。

20年に一度、社殿と神宝を造り替える次回（第63回）式年遷宮は令和15年に予定されており、既に令和７年には“山口祭”、令和８年には御木曳初式が始まっています。

桑名から伊勢神宮につながる参宮街道は別名「餅街道」とも呼ばれました。街道沿いには旅人の道中食として親しまれた名物餅があり、現在でも多くの店でその味を楽しむことができます。

さらに、三重県は、日本書紀で“美（うま）し国”と記されており、なかでも食は、伊勢エビ、アワビ、ハマグリなど海の幸に恵まれています。

加えて、三重県は、牛肉の産地でもあり、日本三大牛肉に数えられる松阪牛のおいしさは県内・国内に留まらず海外に向けて発信されています。産地では、毎年11月に松阪牛まつり（松阪肉牛共進会）が開催され、“松阪牛の女王”が決定されます。審査やセリの様子を観覧できるほか、すき焼きの振る舞いなどがあります。

ほかにもレジャー施設としては、鈴鹿サーキットやナガシマスパーランドなどのほか、最近では、ポケモンをテーマにした「ミジュマル公園」が２か所オープンし、家族連れなどに人気です。また、海水浴や釣り、山登りなど、自然を体験し満喫できるアクティビティも豊富です。

伊勢神宮宇治橋

伊勢名物

松阪肉牛共進会の様子

2 三重県の農業について

中京圏や阪神圏に近い三重県の農業は、水田農業や園芸・特産物、畜産を中心に発展してきており、令和５年の農業産出額は1,218億円となっています。

耕地の76％を占める水田では、早場米として、コシヒカリや結びの神などの主食用米のほか、転作作物として小麦や大豆が栽培されています。

山沿いの丘陵地では茶の栽培が盛んであり、荒茶の生産量は全国第３位、その中でも、収穫前に黒い覆いを被せる“かぶせ茶”の生産量は日本一となっています。

園芸品目については、地域ごとに特色があり、北勢地域では“なばな”や“トマト”、生産量日本一の“さつき”などの花木、伊賀地域では“ぶどう”、南紀地域では一年を通して様々な“柑橘”が栽培されています。

畜産では、“松阪牛”以外にも、県西部の伊賀地域において、赤身が柔らかくあっさりしていることが特徴の“伊賀牛”が生産されています。伊賀牛は生産量の80%が地元で消費される希少性から「幻の牛」と呼ばれています。

三重県の特産品

3 三重県農業信用基金協会の概要

当協会は、令和７年９月に事務所を移転し、現在、理事７名（うち常勤１名）、監事２名の役員９名、職員11名で、総務課と業務課の２課体制により業務を行っています。

4 三重県農業信用基金協会の活動

当協会では、令和７年度～９年度の中期経営計画において、「保証引受の維持・拡大」「代位弁済の未然防止と求償権の適切な管理・回収」「財務基盤の強化」「業務執行体制の充実・強化」の４つを課題として掲げ、基金協会の機能発揮に向け取り組んでいます。

特に、保証残高の24.6%を占めている農業資金のうち、中心となる近代化資金については、保証引受の拡大を図るため、信連と連携し利子補給枠の拡大を県に要望しているほか、大規模化が進む農業法人等の資金繰りなどの相談対応にＪＡ等融資機関と一体となって取り組んでいます。

また、生活資金では、特にマイカーローンの保証引受の拡大に向け、他の保証機関に劣後しない保証条件を維持するとともに、保証審査の迅速化に努めています。

県内の農業を取り巻く環境は、農業者の高齢化や人材不足、気候変動、資材価格の高騰など年々厳しさを増しており、農業資金の代位弁済額も高止まりの傾向にあります。

今後とも当協会では、職員にとって働きやすい・誇れる職場となるよう職場改善の取組を進めながら、関係機関と一層連携し農業者の保証ニーズへの対応や代位弁済の防止を図ることで、農業者の経営発展に貢献してまいります。